

1 実践内容

まず、年度当初、新しい環境に大きな緊張や不安を抱えるAさんがいた。昨年度も年度初めがそうで、特に1学期が大変だったが、2学期、3学期とやっと軌道に乗り、落ち着いてきたころにまた、クラス替え、担任の交代という新しい環境がやってきたのである。

そんなAさんと初めて出会い、とにかく心配なことが出てきたら、私に伝えるように言い、学校から帰る前には、不安なことが残らないよう十分に話してから帰らせるようにした。しかし、家に帰ると明るく日についての新たな不安や前の日の気になることが、Aさんの頭に浮かんでくるのである。

また、保護者と話をさせてもらったところ、初めて集団生活に入った幼稚園の頃の話から、当時の保護者の不安な思いと経験、それから現在に至るまでのいろいろなお話をとめどなく話してくださった。その思いを大切に、Aさんが、無理なく少しずついいから自分で友達とのやりとりがスムーズにできるよう見守り、つまずいたときには相談に乗り、自分で解決していけるようサポートしていくようにした。Aさんの保護者も、たまたま毎日学校に来られる用事があったため、下校時にその日一日のいろんな話ができた。そして、保護者とともにAさんが不安に思いそうなことを予想し、次の日の朝送り出してもらう時の手立てや学校での対処について相談した。年度初めの心配な時期にそれを毎日続けることで、家から学校への道が、スムーズにつながっていくことになった。

次に、年度当初、自分に自信が持てないBさんは、「ぼくって、『がんばろう』1個もないかなあ。」と、何度も聞きに来た。通知票の『がんばろう』のことである。そんな時「どうして。褒めることはあっても、『がんばろう』は、今のところ1個もないよ。だって、いつもお話聞くととき、目が合うし、いい姿勢でお話聞いてくれてるもん。」と言うと、ニコッと笑顔になって遊びに行くのである。

彼は、カッとになると感情が抑えきれず、すぐに手や足が出てしまうところがあった。そんな中、他のクラスのCさんとトラブルになり、その両方の保護者と連絡をとり事情を説明することになった。Cさんのご両親は、Cさんのコミュニケーション能力のことを常に心配されていたのと、以前に強く頭を打ち、経過観察中であったことも心配を増幅させ、「とにかく、安心して学校に行かせられる環境をつくってもらわなければ困る。」とのことであった。その日のうちにCさんの担任と家庭訪問し、事情を初めから丁寧に説明した。その中で、Cさんの保護者が、今まで抱えてこられたお子さんに対する不安やしんどさ、いろんな思いを長い時間をかけてじっくり聞かせていただき、その思いをしっかりと受け止めた。そして、Bさんの指導とその保護者の家庭での関わり、学校での見守りと迅速な対応を約束した。



一方、Bさんの母親からは、今までの謝るばかりだったことのしんどさや保護者としての戸惑い、子育ての悩みなど、途方に暮れておられた気持ちをすべて話していただくことができた。最後には、「初めて、本音を言うことができた。気が楽になった。一緒にやっていってもらえるなら何とかがんばれそう。」というお言葉をいただいた。

さらに、父母と生活できず、祖父母と一緒に暮らしているDさんがいた。家庭訪問では、まわりの親と世代の違う者の子育てについて、これでいいのかと祖父母が常に悩みながら日々暮らしておられることや、父母との関係や事情などをゆっくり聞かせてもらった。その中で、私が日々大事に思い、子どもと関わっていることが、祖母の日々の子育てとびったり重なり、世代が違っても大切に思うこと、大切にしたいこと、大切にしなければならないことは変わらないんだということを経験するいい機会となった。

その後、Bさんとトラブルがあり、この祖父母に心配をかけることが起こった。事情を説明すると、その前にも子育てをはじめ、いろんな話をしていたこともあり、良く理解し許してくださった。謝るばかりで気持ちが滅入っておられたBさんの保護者が、謝りの電話を入れられた時に、「自分も息子の時に謝る側で、謝る方の気持ちが痛いほどわかるから。」と、逆にBさんの保護者を励ましてくださった。私もBさんの保護者も気持ちが救われた。

そして、こういったやりとりや思いの共有を通じて、Cさんの担任をはじめ同僚にも、子どもや保護者への向き合い方を伝えていった。

2 成果と課題

常に相手の立場に立って思いをめぐらせ、考え、家庭訪問や電話でとにかく時間をかけて直接とことん話をした。その結果、家庭との関係が深まり、子どもや保護者に安心感を生み、また、学校の対応への理解や協力を得ることにつながった。また、校内では、同僚や上司と話し合ったり相談したりしながら、どんな時も笑顔を忘れず、相手の気持ちになり、あたたかい気持ち、あたたかい言葉で保護者と関わり、その思いや気持ちに寄りそっていくことの大切さを伝えることができた。

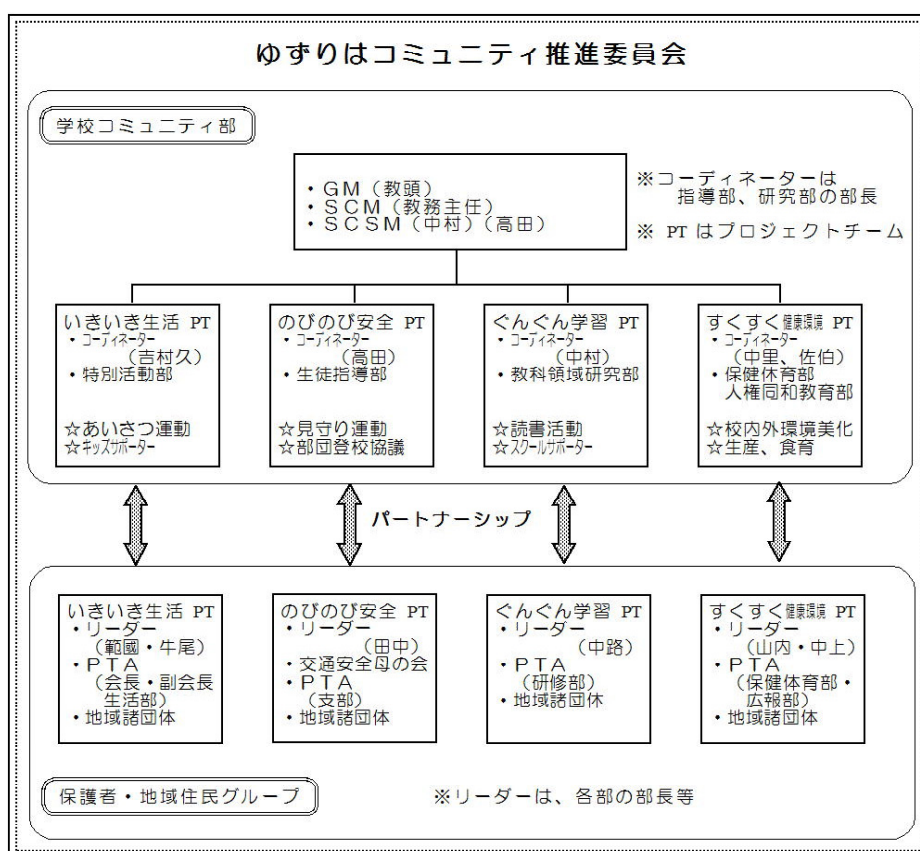
しかしながら、保護者や社会の価値観が多様化する中、ともに歩む気持ちを共有できるまで話し合うには、あまりにも時間がないということが問題である。また、どんな家庭状況であっても、善悪の判断ができる子どもに育てるために、どのように家庭に関わっていけばよいのかがこれからの課題である。

1 実践内容

在任校である香芝市立真美ヶ丘東小学校において、地域との協働を推進するに当たり、学校コミュニティを「ゆずりはコミュニティ」と名付けて取組を進めた。「ゆずりは」は本校のシンボルともいえる樹木であり、またその特徴（ユズリハの名は、春に枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲るように落葉することからきているとされる。その様子を、親が子を育てて家が代々続いていくように見立てて縁起物とされ、正月の飾りや庭木に使われる。）から、地域の中心となる学校コミュニティを表すのにふさわしい名前だと考えた。



本校では以前より、地域と連携したいくつかの取組を行っていたため、まず、それらを踏まえての組織化を進めるところより始めた。「ゆずりはコミュニティ」の推進委員会を、学校コミュニティ部と保護者・地域住民グループから組織し、それぞれにおいて4つのプロジェクトチーム（以下PT）をおいた。4つのPTは、「いきいき生活PT」「のびのび安全PT」「ぐんぐん学習PT」「すくすく健康環境PT」と名付けた。学校と保護者・地域住民グループにおける各PTの担当者が熟議を重ねることで、よりよい活動を検討していけると考えている。



ゆずりはコミュニティ組織図

「いきいき生活PT」は、学校コミュニティ部では特別活動部が中心となり、あいさつ運動やキッズサポーター（児童が中心となって行う校内奉仕作業）などの活動を行った。あいさつ運動は計画委員会児童や教職員を中心として校門前で実施し、香芝市が行っている「ニコニコあいさつの日（毎月25日）」運動とも関連付けて取り組んだ。キッズサポーターは家庭訪問日の午後、希望する児童により、校舎内の壁のペンキ塗りを行った。

「のびのび安全PT」は、生徒指導部が中心となり、登下校における見守り運動や部団登校班編成協議などの活動を行った。見守り運動は、地域の方やPTAの方を中心に安全パトロール隊を結成して実施した。年度の終わりには、感謝の気持ちを伝えたいと、児童が感謝状を贈ることになった。

「ぐんぐん学習PT」は、教科領域研究部が中心となり、読書活動やスクールサポーター、ゲストティーチャーを招いての取組を行った。図書館ボランティアに協力いただいている「えほんのひろば」を実施したり、老人会や地域の方によるゲストティーチャー授業などを学年に応じて設定することができた。



えほんのひろば

「すくすく健康環境PT」は、保健体育部と人権同和教育部が中心となり、校内外環境美化や生産、食育に関する活動を行った。人権の花運動や、香芝市「かしば女性会議」による環境カルタの取組、PTAによるドッジボール大会などの活動を進めた。

上記の取組を学校コミュニティ協議会で報告し、委員より出た意見をもとに、次年度の取組検討に活用している。

2 成果及び課題

これまで本校が行ってきた地域との連携に関する取組を、組織化を通じて明確にすることができたことが大きな成果であったと考えている。それにより、新たな方向性や取組を検討しやすくなった。例えば、「のびのび安全PT」としての活動内容を明確にすることにより、これまで、登下校の安全について、学校が行ってきたこと、地域に提供していたことがはっきりとし、それを踏まえ、今後どのように登下校の安全に取り組めばよいか分かりやすくなった。これまで、学校が行ってきた部団登校班編成に地域の声を反映する等、新たな取組の検討を進めている。

4つのPTを組織して活動したが、学校と地域が熟議を行う場の設定が難しかった。そのため、学校主導の活動になりがちであった。学校コミュニティ協議会委員からも、「学校コミュニティが様々な活動のスイッチを入れるムーブメントの一つとなってほしい」という意見をいただいております、学校と地域がよりよい取組を目指して熟議を重ねる場の設定を進めていきたい。

3 その他参考となる事項

香芝市立真美ヶ丘東小学校ホームページ

http://www.city.kashiba.lg.jp/mamigaokahigashi_s/

分野番号 7 小学校 学校教育目標の具体化の部

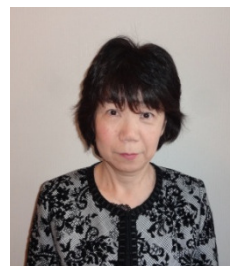
魅力ある学級・学校づくりを目指して

～感謝の心で「学校が好き・ふるさとが好き」と言える子に～

天理市立櫛本小学校 教諭 牧山 文美

1 実践内容

本校では「櫛本の歴史と自然に学び、感謝の心と笑顔を忘れず、誇りを持って逞しく生きていく児童を育成する」と教育目標をかかげ日々取り組んでいる。教務主任、学級担任として、教師も子どもも笑顔で、意欲に燃えて「学校が好き・ふるさとが好き」と言える学級・学校作りを進めてきた。教師間のつながり、教師と子ども、学校と家庭・地域とのつながりを大切にして取り組んだ概要を報告したい。



(1) 地域とつながる体験活動でふるさとを愛する子に

① 学校・家庭・地域一体となった「埴輪祭り」

櫛本小学校の校区には多くの古墳があり埴輪の里と呼ばれている。「埴輪」をキーワードに地域と一体となって行っているのが「埴輪祭り」である。5年生は夏に埴輪を作り、この埴輪を使って冬の「埴輪祭り」で野焼きを行う。校区ウォークラリーでは、6年生が校区の神社仏閣など歴史的なポイントで下級生や地域の方に紹介を行う。地域の魅力発見・発信の場である。翌年の夏の「燈花会」で埴輪が並べられ、運動場一面に広がる埴輪の絵の幻想的な輝きが人々の心を楽しませる。子どもたちは「埴輪祭り」が大好きである。地域の「埴輪祭り実行委員会」と「校内埴輪祭り実行委員会」また教師間との連絡調整をしながら、学校が地域とつながり、ふるさとを愛し誇りに思う子どもを、みんなで育てていることを実感している。



「はにわ祭り」火入れ式

② 5年生「米作り体験」

5年生の社会科と総合の時間に「米作り」の体験をさせた。田植えや稲刈りを通して、子どもたちは米作りの大変さや先人たちの苦勞・偉大さを知るとともに、「食」をささえる人たちに感謝の気持ちを持つことができた。お世話をしてくださった地域の吉本さんに、おにぎりや自分で作った「川柳集」を届けた。また、自分たちの田んぼに案山子の「はにワン」を設置して地域の方に喜んでもらい、今、本校のマスコットキャラクターとして学校の人気者になっている。

(2) 規範意識を持ち、マナーある行動ができる子に

子どもの規範意識を高めることは重要な課題である。道徳の時間はもとより様々な学習活動の中で、きまりを守ろうとする意欲、規範についての知識、実践力を高めてきた。校外学習は、社会のルール・マナーを教えるにはよい機会となる。公共機関や公共の場での態度、説明・案内していただく人たちの立場にたって考えることにより、感謝の気持ちを持ち、自分たちのとるべき態度について考えさせ実行させた。自分の行動や学んだことのお互いの振り返りを行うことによって、さらに意欲を高める工夫をした。4年生での社会見学やならまちウォークラリー、5年生での宿泊訓練で

は、事前の指導を通して、ルールを守り、協力して行動することができた。グループ行動により、協力してルールを守りながら活動する力を高めた。事後指導では、学びをグループごとにまとめ、発表したり、お礼の手紙を書いたり充実感を持たせて次の意欲づけにつなげた。

(3) 感謝の心を持ち、人の役に立つことに喜びを感じることができる子に

「ありがとう」をキーワードに、4年生の最後の授業参観には「二分の一成人式」を行った。家族に感謝の気持ちを伝えるとともに夢を語りこれからの努力を誓った。保護者の方からも涙ながらに喜びの言葉を伝えていただいた。2年生への「給食当番のお手伝い」では高学年として進んで手伝い、片付けに行く姿が日常的に見られるようになった。「分団登下校」では、下級生の世話をしながら安全な登下校に注意する力を付けていった。「6年生を送る会」では全ての企画・運営をし、6年生に喜んでもらえるよう、感謝の気持ちをこめて感動の送る会を演出することができた。



二分の一成人式

(4) 自分の役割は責任をもって果たし、主体的に行動できる子

小学校6年間と中学校への縦と横のつながりを意識して、主体性を育てる楽しい活動を進めた。4年生の「クリスマス会」では、二人の児童がクラス全員分のサンタクロースの三角帽子を作ってくるなど、サプライズがあり大いに盛り上がった。5年生では「ハロウィンの仮装大会」を企画し仮装大賞を決めた。投票の結果、資金0円すべて手作りで、しかもそっくりのアンパンマンが選ばれた。また国語科で「わたしたちの『図書館改造』提案」を学習した後、「5年1組改造提案」を書かせたが、「5年1組を明るく華のあるクラスにするために」や「休み時間に教室に一人も残らず運動場で遊ぶようにするために」など面白い提案が出され実行されていった。

(5) 学校評価の活用

教務主任として、学校の取組や子どもの変容を的確に捉え、PDCAサイクルで教育改善ができるように、項目内容の検討など学校評価の効果的な活用に努めた。

2 成果及び課題

平成24、25年度児童の意識調査・学校評価の結果では、「学校が楽しい」「みんなで何かをやるのが楽しい」など肯定的な回答が高くなった。豊かな体験活動や子どもの自尊感情や規範意識を高める指導と取組が、成果をあげることにつながったと考える。子どもたちへの質問で「あなたが学校を誇りに思うことはどんなことですか」という問いに、「埴輪祭りを地域の方と行っていること」「古い歴史や建物があること」「みんながやさしいこと」などたくさん回答するようになったこともうれしい。

今後は、自己点検・学校評価を活かしながら、子どもたちがふるさとに誇りを持ち、仲間と協力して楽しい学校・学級作りをする「主人公」としてがんばってくれるよう、教務主任としてのリーダーシップを発揮できるよう、さらに研鑽を積み上げていきたい。

3 その他参考となる事項

天理市立櫛本小学校ホームページ <http://ed.city.tenri.nara.jp/ichinomoto-el/>

1 実践内容

保健室から見て、「まっすぐに立ってられない子」「すぐに転ぶ子」「転んでも手がつけない子」「物が飛んできて、よけられない子」「物によくぶつかる子」など、不器用な子どもが多くいる。学級でも、「落ち着かない子」「話が聞けない子」「人とうまく関われない子」「トラブルが多く、反抗的な態度をとる子」などが見られ、気になる子どもが増えてきているように感じる。



そのような子どもたちをどのように支援していくべきか、関西国際大学の中尾繁樹先生に巡回相談に来ていただき、助言を受けた。当初は助言を受けても、その学級だけの取組だけに終わり、継続的な取組には至らなかった。そこで、本校の子どもたちの体や人との関わりの不器用さを把握し、体づくりを中心に学校全体としての取組をしていくために、プロジェクトチーム「G n P（ぐんぐん のびろ プロジェクト）」を立ち上げ、平成24年度末より取り組んだ。

(1) 子どもたちが楽しみながら体を動かせる環境づくり

- ・中庭にケンパの線を描く。
- ・中庭から運動場への通路にラダーを描く。
- ・渡り廊下にジャンプの的をぶら下げる
- ・運動場の体育倉庫の壁にストラックアウトの的を描く。
- ・青竹ふみを各教室に置く。
- ・体育館の壁にジャンプの目標となるキャラクターを貼る。
- ・ホースでフープを作る。 など



(2) 「今月の動き」

月初めにある「さわやか朝会（全校朝会）」で、G n Pメンバーが「今月の動き」の紹介と何を鍛える運動かを子どもたちに話し、その運動を毎日の朝の会で継続して行う。

月	今月の動き	目的
5	すわってバンザイ	骨盤を起こして正しい姿勢を作る。
6	かかとつま先バランス	左右の足のかかととつま先をつけて立ち、目を閉じて30秒間静止することでバランス感覚を養う。
7	コキコキ クネクネ	体を腰から下、腰から胸、胸から上に3分割して動かし、体の軸を鍛える。
9	水平バランス	片足で立ち、上半身を床と水平にして、バランス感覚を養う。
10	カヌーこぎ	肩から腕を回し、肩甲骨を動かす。投げる運動や、走の運動につながる。
11	Z（ゼット）	床に膝立ちをし、腕を前に伸ばす。体を一直線にしながらかた後ろに倒し、Zの形で静止することで、体の軸を鍛える。
12	うしろでパッチン	二人背中合わせに立ち、足を動かさずに上半身をひ

		ねり、相手と手のひらでタッチすることで、体の軸を鍛える。
1	ナンフー体操	カンフーと太極拳の動きを取り入れたオリジナルの体操である。ゆっくりとした動きと、体を支えて静止する動きで、重労働筋（身体を保持したり、ゆっくり動かしたりする筋肉）と体の軸を鍛える。
2	よつんばいバランス	よつんばいで反体側の片手片足を上げ、体の軸を鍛える。

(3) 体育の授業の中での体づくり

- ・授業の導入に体の軸を鍛える運動やサーキット運動を取り入れる。

(4) 学校生活の中での体づくり

- ・クラス遊びや縦割り遊び、スポーツ集会の時に、昔遊びや体の軸を鍛える運動などをいれる。
- ・授業の始めに「机ツバメ（机に手をつき、ツバメのポーズをする）」や「10秒間かけてゆっくりすわる」をする。（1年） など

(5) 体重測定時の保健指導

- ・姿勢の話や、体の軸を鍛える大切さを話し、実際に運動を行う。

(6) 個人カードの作成

(7) 研修会の開催

- ・中尾繁樹先生を招いての研修会及び勉強会を開催する。

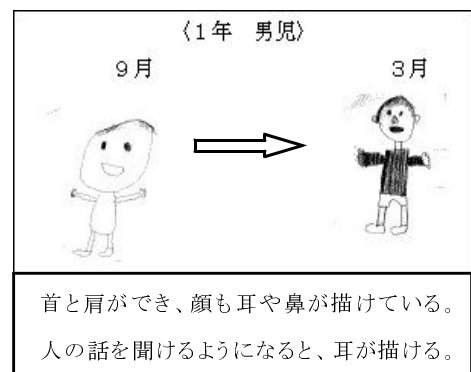
2 成果及び課題

ケンパやジャンプの的などは、子どもたちに好評で、気軽に遊んでいる姿がよく見られる。今月の動きも、毎日朝の会に行くことで定着してきている。ナンフー体操は、1～2月の朝休みと中休みに自由参加で行ったが、低学年を中心に誘いあう姿が見られた。寒い時期には、体を動かす遊びが少なくなりがちであるが、運動の苦手な子どもたちも多く参加していたことは有意義であったと思われる。

これらの取組を通して、少しずつではあるがけがでの保健室来室者が減り、日本スポーツ振興センター適用のけがの発生率が減少した。また、グッドイナフ人物画検査でも、体づくりをしたことにより、ボディイメージが高まり、伸びが見られた。さらに、授業の始めに「机ツバメ」などをするにより、学習に向かう構えができたことも大きな成果である。

今後も、環境づくりや体づくりの運動を継続し、子どもたちが楽しんで取り組めるように工夫をしていきたい。

また、幼稚園との交流を図り、一緒に体づくりの取組を進めていきたいと考えている。



3 その他参考となる事項

参考文献

- 「子どもの特性を知るアセスメントと指導・支援」 中尾繁樹 明治図書（2009）
「不器用な子どもたちの感覚運動指導」 中尾繁樹 明治図書（2013）

分野番号7 小学校 学校教育目標の具体化の部

「生きてはたらく言葉の力」を育むための系統立てた指導法の確立と 若手教員の実践力の育成

高取町立たかむち小学校 教諭 浅井 真紀

1 実践内容

平成20年度、高取町内の2小学校が統合となり「たかむち小学校」が開校。「心豊かに、自ら進んで学び、たくましく生きる子どもの育成」の学校教育目標のもと、様々な取組を行ってきた。その中で、本校児童の課題は「コミュニケーション能力の向上」であることが明らかとなり、研修主任として、そのための系統立てた指導法の確立に取り組んできた。



また、現代の教育界において急務ともいえる若手教員の実践力向上を目指した取組も積極的に行ってきた。

(1) 全教職員の共通理解のもと、児童の「生きてはたらく言葉の力」を育む

コミュニケーション能力向上を目指した取組を進めてきたにもかかわらず、語彙の乏しさ、表現スキルの未熟さという課題がなかなか払拭できなかった。その背景には、校内に系統立った具体的な指導計画がなく、個々の実践に頼っていたという経緯があった。

そこで、児童が実生活に生きてはたらく言葉の使い手となるため、研究主題を「生き生きと表現し、高まり合う子を目指して」とし、研修主任として自らの実践を基盤にした「言語環境の整備」「言語活動の充実」についての系統立った指導内容・指導法を提案し全校に広め、全教職員が一丸となってそれに取り組む体制を確立させた。

まず1年次、本校児童の言語についての課題を踏まえ「児童に付けたいコミュニケーション能力」（国語科の3領域の学年到達目標をベースにしたもの、身に付けたい話型など）を設定し、国語科だけでなく全ての教育活動全般において言語活動を意識した取組を積極的に行った。

2年次は、語彙や表現を豊かにするためのより具体的な指導法について研修を深めるため、研修教科を国語科に限定し、授業公開や講師を招聘しての研修を設定した。

3年次、国語科で培ったスキルを他教科で積極的に活用する授業づくりを進めた。県教育委員会の指導主事や県国語教育研究会の先生方を講師として招聘し、全学年が研究授業を行う体制を整えた。また、指導案に「本単元で扱う言語活動」の項目を作り、学習指導の中で行う言語活動について明記し、それに伴い授業評価の観点も明確化させた。

そして4年次、平成27年度に県道徳教育研究大会会場校として公開授業を行うに当たり、研究主題を踏襲しながら、副題を「言語活動の充実を基盤とした『生きる力』を育む道徳授業の構築」とし、道徳の授業において言語活動を有効に活用する指導を充実させるべく実践を重ねている。県の指導主事や畿央大学教育学部現代教育学科教授の島恒生氏を講師



として招聘し、全学年が研究授業を行うほか、授業作りの研修を自主的に開催するなど、研修体制は年々確実に充実してきている。

(2) 若手教員の実践力向上を目指して

現在、本校は約4割が教職経験10年未満の教員で、今後さらに加速度的に若手教員が増加することが予想される。そこで、若手教員が学級経営だけでなく校務全体のことを考え、積極的に職務に励もうと思える雰囲気づくりを目指した。まず、ベテラン教員が示範授業や実践・教材の紹介を積極的に行いながら、若手教員が研究授業や自主的な公開授業を進んで行う校内体制を整えた。また、ベテラン教員と若手教員が忌憚なく意見を交流し合える場として、授業後の研究協議を少人数グループ形式で行い、若手教員が受け身にならず積極的に意見を出せるようにした。さらに、校長の指示のもと、校務分掌においても責任のあるポジションに若手教員を積極的に配置（平成26年度校務分掌において、3主任が30歳代前半～半ば）、ベテラン教員が随時サポートできる体制をとることで、若手教員が責任感をもって校務に従事する体制を確立した。

2 成果及び課題

自らの実践をもとに「児童に付けたいコミュニケーション能力」を設定したり、「声のものさし」等の視覚に効果的に訴える掲示物をすべての教室に掲示したりしたことで、全教職員が共通理解のもつ的確な指導を行えるようになった。全学年・学級において、授業だけでなく学級指導や特別活動等においても常に言語活動を意識した指導が展開され、校内の言語環境も整備していった結果、「みんなの前で表現したい」と思える児童、基本話型を使いながらきちんと伝えられる児童が増えており、児童のコミュニケーション能力は確実に向上しているといえる。



また「道徳における言語活動の有効活用」の研究にも余念がなく、現在取組半ばではあるが、教材研究や指導案作成等の学年会議を積極的に行い、全教職員が個々のスキルアップを図っている。

一方、職務の多忙化によりベテラン教員が若手教員に指導のスキルや「教師道」なるものを伝承する機会もままならないが、若手教員の積極性を確実に高めることで、時間や労力を有効利用しながら「教師はプロである」ということをしっかりと認識させることができていると考える。その成果として、本校では若手教員の多くが研究授業を自ら希望し、研究授業後のグループ協議でも率先して司会進行やまとめの発表をしている。校務分掌においても、これまでの取組を踏襲しつつ新しいことにも挑戦しようとする意欲的な姿勢が見られ、それをベテラン教員が陰になり日向になりながらサポートする協力体制が確かなものとなっている。また、若手教員同士で互いに切磋琢磨し合い、さらに実践力を伸ばしている。

研修とは「気付きと感動を通して学ぶ」ことであり、教育には「感性」が重要であると聞いたことがある。研修主任という立場から、若手教員を含めた全ての教職員が「感性」を磨き、やり甲斐と誇りをもって目の前の児童の明るい未来のために尽力する教師集団の形成に、これからも微力ながら取り組んでいきたい。

1 実践内容

本校の生徒は、男女を問わず無邪気で、あいさつ励行を心がけ親しみやすく素直な面がみられ、落ち着いた学校生活を送っている。しかし、何事に対しても自分から進んで考えたり行動したりするという力が弱い。そこで、学校は、地域の方々と共に子どもたちを育てるという視点に立って、学校、家庭、地域が連携し「参画・協働」する取組を通じて、生徒が規範意識を高めつつ意欲的に活動する機会を多く設けた。



<具体的取組>

(1) 避難所設置防災宿泊訓練

3年前より学校・自治会・保護者が計画を立て、避難所設置訓練を取り入れた防災訓練を行っている。参加生徒は、生徒会が呼びかけ、毎年約15名前後の参加者になる。生徒たちは、まず自分の命を守ることを第一に、「助けられる人から助ける人へ」をスローガンに活躍した。人数確認・施設の案内・パーティーの組み立て等避難所設置訓練をこなし、その後の救命救急訓練に積極的に取り組むことができた。



(2) ゆかた着付け教室

重伝建に指定されている新町通りにあるまちなみ伝承館において、地元の着付け教室の先生方を外部講師としてむかえ、日本の着物文化とゆかた着付けの授業を2年家庭科と総合の時間で設計した。生徒たちは、地元の先生からゆかたの由来やその作り方、そして日本語になっている「襟を正す」「しつけ」は着物文化から派生している言葉であることを作法やマナーとともに学習している。最後にお礼を言うときに生徒たちが自主的に正座をし、礼儀の面でも成長した姿を見ることができた。

(3) 文化財に親しむ

一年生は、地域の登録有形文化財である藤岡家住宅の修繕保存への思いや願いを地元NPO法人「うちのの館」の方々から教わった。その後、学芸員の方に用意した質問に答えていただき、住宅を案内していただいた。住宅内には、貴重な展示物が手の届くところにたくさんあったが生徒たちは、マナーを守りながらしっかり説明を聞いた。その後、自分の印象に残った場所などをスケッチした。スケッチは、法人の方にはがきやポスターにさせていただき、地元の伝統や文化財を大切にする心の啓蒙に役立った。

(4) 登下校指導

登校時には、教員とボランティアの生徒たちが元気な声で生徒たちの登校を迎えている。また、下校時には、全教員で生徒たちの下校を見守り、大きな声で挨拶が交わされ一日が終わるといった取組を行っている。

下校時における校門立哨は、地域の方々によっても定期的に行われている。通学路では、声かけをしながら生徒たちの様子を見守ってくださる方が多く、生徒たちも地域の方々の後ろ姿を見ながら成長している。



(5) 花いっぱい運動

以前は、生徒会の役員が市販の花を購入し花いっぱい運動を行っていた。今年度より生徒会の呼びかけで花いっぱい運動への参加者を募集して行った。そして、地域の方々にいただいたひまわりの種を蒔き、欠かさず水やりを行い種から大きな花を咲かせることができた。ひまわりは、グラウンドと市道に接する場所約50mの間に咲かせたので地域の方々にも好評になり、『ひまわりロード』として道行く方々にも「きれいやな」「毎年してや」と喜ばれている。この取組を通して、命の大切さや規範意識の高揚が現れてきた。



今後、種を収穫し地域の学校や地域の方々にもらっていただく計画をしている。

2 成果及び課題

学校と地域の人々や保護者とともに活動したり学んだりすることで、生徒が地域の人々の願いや思いを知ることができた。そして、人々の見守りや情熱的な思いが生徒の規範意識を高め礼儀やマナーを守る行動に現れてきていると感じている。また、これらの活動は五中生を知ってもらうきっかけとなり、地域の方々との関係が深まってきた。今後、これらの活動を通してより活発にし、地元のすばらしさを感じとり、地域の学校としての誇りと地域に愛される学校の一員としての自覚をもって学校生活を送れる生徒を育てていきたい。